

2012年5月26日

大人塾 開講記念講演会

『101歳 が語る前向き人生～85歳からのフェアトレード』

始めに

杉並区教育委員会事務局 生涯学習スポーツ担当部長 本橋正敏

本日は、大勢の方々にご参加いただき、また大人塾へのご応募もいただきありがとうございます。私は3月まで中央図書館の館長をしておりました。人に本を貸すのがメインの仕事ですが、本と本を通して、人も結びついていくことに気付き、人と人とを本を通して結びつけるのが図書館の仕事なのかな、と思った次第です。そう思うと、社会教育施設での仕事も、人と人、区民と区民を結びつけるのが最終的な仕事ですし、役所自体、自治体自体が人と人を結びつけてよりよい地域づくりをすることが、仕事なのだと思います。

私自身も、定年を前にどうやって地域デビューしようかと思う年頃です。そんな折、101歳の大先輩のお話が聞けるなんて、仕事の上とはいえ、チャンスでありラッキーだと思っています。また大人塾に携われることも、嬉しく思っております。皆さんも、これからの安藤さんの前向きなお話を、楽しみにしていると思います。皆様方にとって有意義な時間になることを願っております。大人塾のキャッチコピーとして、「自分をふりかえり、社会とのつながりをみつける大人の放課後」とありますが、その通り、立ち止まってふり返って、地域とのつながりを再確認できる、そんな講演会となれば嬉しい限りです。

講演者：安藤久蔵さん コーヒー豆卸売販売店アロマフレッシュ店主

対談者：国立教育政策研究所生涯学習政策研究部統括研究官

大人塾アドバイザー 笹井 宏益

安藤さん：

本日はお忙しいところ足をお運び頂きありがとうございます。1世紀生きてまいり、色んなことがございました。兵隊はシナ事変、昭和13年から中国へ、インパール作戦で二度目に召集され、波乱の人生を生きてきた訳ですが、「平和が一番。自由がいいな。平和を守らなきゃ」とつくづく感じています。大分、度忘れが多くて、みなさんから質問をいただければ思い出すかもしれないです。

笹井さん：

プロフィールを読ませて頂きます。

1911 年生まれ、大学卒業後に貿易会社を経て家業の漁業を引き継ぐ。

12 歳で関東大震災も経験されて、日中戦争をご体験、復員後は遠洋漁業で世界各地を回る。

50 歳で退職後、知り合った南米の山岳ポーターに頼まれて 85 歳からフェアトレード方式の儲けることを第一にしない貿易で焙煎の事業を始める。

現在は善福寺にお住まいということですか？

戦争から戻られて、遠洋漁業で世界各地を色々な国を回られたそうですが、どんな体験をされたのですか？

安藤さん：

私は千葉県の銚子出身で 銚子というところは 殆ど遠洋漁業なんです。それが船団を組んで南極の近くまで鯨を捕りに行ったり、冬になるとニシンを捕ったり、あとはノルウェーの方まで紅鮭を捕りに行きましたね。そういうことで、地球を股にかけて、魚のいるところはどこにでも行きましたよ。

笹井さん：

死にそうになったことはあったのですか？

安藤：

それはもう欲をかいたためにね。小名浜に、黒潮に乗ってイワシが来るとき、イワシを捕りに行ったんですが、船には喫水線という白い線があって、そこを超えると危険なんです。ところが、魚が金に見えて、釣りすぎて、重みで転覆しちゃいました。2 日間、小名浜沖を泳いでいたことはあります。ほかにも、いろんなことがありましたよ。

笹井さん：

50 歳で仕事を引退されてから、山歩きを始めたんですね。

安藤さん：

いえ、私は 17 歳から山歩きを始めて日本中の山 1,000 以上、北海道から九州まで殆どの山は登りましたね。山をやることによって仲間が沢山できました。コーヒーをやっている善福寺、そこも、元々は杉並社会人山岳会という会の事務所でした。チームを組んであちこち山に行く拠点にしていました。

南アルプス、北アルプス、八ヶ岳、色んなところに行くのに、中央線は便利ですから。そんなことを 85 歳までやっておりました。

笹井さん：

山登りが好きな理由は何でしょう？

安藤さん：

よく聞かれるんですが、山は景色も空気も水もいい、でもそれだけではない。感動なんです。きつい山ほど感動があるんです。最近のエベレストも 8 合目までヘリコプターで行ける時代ですが、私は下から、富士山も下から登ります。すると、「やったぞ！」と言う感動でいっぱいになります。

笹井さん：

山登りはいつも同じメンバーと行くのですか？

安藤さん：

いえ。最近、うちのお客さんは 100 人くらいいますから。明日も連れて行くんですがね。富士山は 80 回位登りましたが、それは富士山の掃除を頼まれてね。一般の方が富士山に登るようになって汚すので、6月の末から7月の山開きにはきれいになるように掃除をしに行っていたんです。

笹井さん：

山歩きで友達ができたのですか？

安藤さん：

大勢できましたが、亡くなった方もたくさんいます。国際的なアルピニスト植村直巳さん、長谷川恒夫さんもそうですし、外国の方もいます。それと同時に外国の山でお世話になった方も、ケニア、タンザニア、コロンビア各地で協力してくれたポーター、そういう方が今のコーヒーにつながるわけです。

笹井さん：

資料の新聞記事に、1960 年ごろ南米アンデス山脈縦断とありますが、これがコーヒーのきっかけになったのでしょうか？

安藤さん：そうです。登山のときだけでなく、その後も連絡を取り合って親しくしている方が、農業をしてコーヒーを栽培していて、相場ものなので彼らに入る利益がほんのわずかだったんです。それで「旦那の国はコーヒーをかなり消費しているから売ってくれ」と頼まれ、最初のうちは「わたしはコーヒー屋じゃないから」と断っていたのですが、何度も頼まれ、昔はお世話になったからやってみよう、と85歳から始めました。

笹井さん：

良い豆を収穫しても、消費者の取引額の数百分の一しか生産者には支払われないそうですね。フェアトレードとは、どんな取り組みなのですか？

安藤さん：

フェアトレードとは生産者の賃金・労働を保障するものです。コーヒーをやって16年ですが、最初個人で取引をしていましたが、最近では、コーヒーを栽培する農家が連帯組合を組成して現在は農協ビジネスまで発展しています。個人個人の取引だから叩かれるので組合を作って、その組合に中国、インドから買い付けに来ています。

笹井さん：

フェアトレードをするということは、現地の人との信頼関係があるのですよね。

安藤さん：

そうですね。特に少数民族がコーヒーをやっています。フェアトレードでも、企業が土地を買って現地人使ってやっているものもありますが、個人でやっている方は個人が協力して連帯組合を作っています。

笹井さん：

コーヒー豆の事業に、山歩きや遠洋漁業の経験が生きているのでしょうか？

安藤さん：

遠洋漁業の場合、今では漁具は持っていかず、トランクにお金だけ入れて持っていき、カナダやロシアといった現地からその船に乗せてもらうそうです。山歩きは、私の若いときは、わらじ、地下足袋 脚絆というのを履いて、てくてく歩いたものです。自分で麻袋に紐をつけて作ってしょっていました。そ

ういう時代ですからね。

何で山に登るのって聞かれるけれど、健康のためじゃない。だって、健康の人が登ってるんだから。健康のためだと、少し体が良くなるとやめてしまうんです。私の場合は趣味だから、暇さえあれば登ります。山は趣味にきなさい。気候に関係なく、健康であっても歩きます、と伝えてますよ。

笹井さん：
生活の中心にする、ということでしょうか？

安藤さん：
17歳から山を始めて、山以外に能がないのですが、やっていたからこの年になっても人様に喜んでもらえることができます。健康保険も30年間使ったことがない。保険課に行って「少しまけてくれ」と言ったこともありますが、課長が出てきて「分かるけれど、お国のためだから・・・」と言われて、私もお国のためと言われると弱くてね・・・。風邪もひきますが、生姜湯を飲んで温めて治します。

笹井さん：
そうすると、コーヒー豆の仕事も趣味？

安藤さん：
それは人助け。人の喜ぶことは長続きする。喜ばないことだと続かない。

笹井さん：
お金をもっと欲しいと思ったことはないですか？

安藤さん：
85歳からコーヒーを始めたとき、お客さんに「旦那さんまだ金がいるのか？」と尋ねられました。でも、お金じゃないんです。人が喜ぶから。この年になったらお金は関係ないです。あと健康のこと、それに気を付ければ、健康であれば人が寄ってきます。一度は頼んで聞いてくれても、三度四度になると、またか、と嫌がられますから。70歳以上になったら、健康で自分のことだけでよいからやれるようにならないと。

笹井さん：

日中戦争のご体験は、どういう意味がありましたか？

安藤さん：

その当時はお国のため、命をお国に差し上げて進んで行ったものですから。私が学生時代のとき、ある運動家と会いました。それが小林多喜二さん。この近辺、馬橋に住んでいました。友人に「いい話が聞けるぞ。学校じゃ聞けない話だ。お茶の水のニコライ堂の下の下宿屋でやるから 変装してこい」と誘われました。当時、治安維持法があり、5人以上集まると警察に届けなくてはいけないし、言論の自由 出版の自由、集会が禁じられていました。多喜二さんは、「若者よ、大きな目を開けろ。いま時代がどんどん変わっている。」と語りましたが、そのときはあまり分からずにいました。昭和13年召集を受けて、中国に行って戦いました。激戦で、村の人間も大勢犠牲になっていました。その中に、母親が手も取れて足も取れて、子供がそこで起こしている光景を見て、戦争は人殺しだ、国が言っていることは違う、と思い、その時多喜二の言葉を思い出しました。でも、侵略はどんどん進んで行って、本土も焦土になってしまいました。

笹井さん：

中国での戦争では悲惨な目に沢山あってこられたと思いますが、無事に日本に戻ってこられたのはなぜでしょう？

安藤さん：中国で16年に、頭をやられたんです。鉄兜の中で弾がぐるぐる回った。まっすぐ来たら名誉の戦死だったんですが・・・。何で敵の兵隊が俺の頭を射抜いてくれないのか、と何度も思ったことがあります。金鷄勲章というのがあって、それは名誉の戦死があった家に与えられるのですが、今でいうと年金と同じです。私が幼少の頃にそういう家があって、そこを通るといつも会釈をしていた。そこは日露戦争で息子さんを亡くした家で、その旦那は朝から酒を飲んでいました。親父が手紙を届けるの嫌だから、小学校1年くらいの時に代わりに行かされました。すると、「おい坊主よくきたな、塩つけて食ってやろうか」と言われ、怖かった。それで帰ってから「あのタコ入道め」なんて言うと、母親に「そんなこと、言うもんじゃない。あれは村一番の働き者だった、持ちきれない金を持ったからああなったんだよ。」と教えられました。仕事しなくても、農家やらなくても立派な家に住めるんだ、名誉の戦死をすれば俺も親孝行

できるかな、と思いました。

ところが死なないで帰ってきて、陸軍病院に入って治って、その時には大東亜戦争が始まっていて、連隊長に呼ばれ、インパール作戦に参加しイギリス、インド軍と戦って、そこで終戦を迎えました。

笹井さん：

戦争の経験は、安藤さんご自身にとってどういう意味を持っていますか？

安藤さん：

戦争は人を殺めることだから、どんな理屈をつけてもよくない正当化できないと思います。人間同士だから話せば分かり合えるはずですが。現実には戦ってきたけど、何も残らないと痛感していますから。平和が一番大事、それ以上のことはないです。

笹井さん：

安藤さんの人生は、山あり谷ありで、波瀾万丈ですが、前向きにプラス思考に生きられる原動力は何なのでしょう？

安藤さん：

考えながら生きているわけではないですが、人と接する事が大事だと思います。また、長生きの秘訣を良く聞かれるが、秘訣はないです。栄養のあるもの食べて、運動して、それくらいです。精神的な面、特に「思考」(思う・考える、)が前向きなことが大事です。みなさん御存じの金さん銀さんというおばあさんにテレビ局の人が「出演料、何に使いますか？」と尋ねたところ、「老後のために」と答えたそうです。前向きだから思考も気力がしっかりするのでしょうか。お経の中に、「忘路」(ぼうろ)という教えがあります。過去のことはくよくよせず これからこれから、と先のこと考える、それが長生きのひとつ秘訣でしょう。

笹井さん：

いい人間関係とか、いい友達が大事だとか思うのですが、安藤さんの周りはどうでしょうか？

安藤さん：

愚痴を言ったり、人の悪口は精神的に元気でない証拠ですが、そういうことが

なければ人が寄ってきますよ。

笹井さん：

だんだん老いていくと、病気になるかもしれない、とか死ぬかもしれないと思ってしまうのですが、安藤さんは、死ぬこと、病気になることはこわくないのですか？

安藤さん：

人間はいずれ死ぬのだから。そういうことを考えるからよくない。考えるから、ますます弱ってしまう。前向きに生きることが大事です。

笹井さん：

いまの若い人どのように見てらっしゃるのでしょうか？

安藤さん：

今の若者は非常に素直だと思います。私のところにくるお客様は、殆ど20代30代40代です。その中にニートの人もいます。家があり、親が小遣いくれるので遊んでぶらぶらしているのですが、「遊んで食べられるんだったら俺も生まれ変わったらそれで行こうか。こんないいことはないな！」などと話していました。あるとき、ニートの子がニートの友達を連れて来ました。

「これからどうするの？」と聞くと

「吉祥寺あたりでも行こうかな」

「そうか、いいねー」

「おじいさんは？」

「これから豆も焼かなきゃいけない」

「そっか。大変だね。」

「うん。でも好きだからね。あなたが遊ぶのが好きだから遊ぶのと同じだよ。」なんて話していたんです。

そしたら、しばらくして仕事をみつけて働くことになったよ、と言いにきました。「どういう心境だ、遊んで食べていけるなら続けたらどうだ！？」と言うと「100歳になる旦那が働いてるのに働かない訳にはいかない。」と。

こちらの姿勢で相手を説得する、こういうことは昔は多かった。丁稚、小僧、番頭は「見て覚えろ」と教えられていました。

それから、ニートの子の母親が飛んできたんです。「旦那、うちの息子に何か言ったんですか？」って。聞けば、「息子に小遣いもらった、給料1か月分の10万円の給料袋。」「大したもんだね！」と喜び合いました。

その子が来て、「いいことしたな〜！」と話して、こんなことを聞きました。
「ひとを喜ばすことと、そうでないことどっちがいい？ニートの時はもらってばかりいた、あげるとどっちがいい？」

「あげるほうがいい。」

そういう若者は、何人か聞いてみると、仕事が嫌なのではないのです。人間関係が嫌なんでしょうね。このばかやろうなんて、親にも言われたことがないことを言われ、腹が立って辞めてしまう。家で優しく育てているから、やめても困らないからね。

笹井さん：

そうすると、いい人間関係を作っていくコツは・・・？

安藤さん：

先程から何遍も申ししていますが、人が喜ぶことをすることです。

暗いことばかり言っているとだんだん回りに人がいなくなります。

お金のこともダメ。それから自分を押し付けるんでなく、相手の考えを大事にすることです。

笹井さん：

時間がせまってきましたので、質問の時間を取らせていただきます。

ご質問がある方は挙手してください。

質問者：

安藤さんは私より10年先輩ですが、ずっと若く見えますね。

安藤さん：

よく、いわれますよ。シルバーシートに座っていると、杖ついた人がくる、「どうぞ」と席を譲るんです。「世の中変わりましたね。シルバーシート設けないと座れないんだからね」なんて話したりね。

質問者：

今は介護保険なんかありますが、昔はなかったし、過保護になりすぎじゃないですかね？

安藤さん：そうね。年金も戦後出来たものだしね。

私は軍人保険が月17万円くらいあるけど、返上してるんです。もったいないね、と言われるけど、コーヒー焙煎業をやってるからその分上積みすると、税金がぐっと上がっちゃう。税金対策！

質問者：

将来の夢は何ですか？

安藤さん：

楽に死ねることだね。

友人に医者がたくさんいるから聞いたら、100歳を超えてるんだから、せいぜい苦しんで15分だって言われました。3ケタ越すと楽しいね。90歳超えると早いらしい。せいぜい1か月。60代70代だと、10年くらいぐずぐずするらしい。まだ寿命が残っているからね。3ケタだと楽に死ねるライン。だから皆さんも長生きしてください。楽に死ねますよ！60代70代では一生懸命鍛えて、健康なら家族に喜ばれるしね。

質問者：

来年の予定と目標は何ですか？

安藤さん：

目標はしてないです。自分の目標より、お客さんが沢山できたからね。花見には外国人も含めて250人、みんなで見に行った。みなさんに美味しいコーヒーを飲ましてやろう。死んだら、ざまあみやがれ、です。

質問者：

フェアトレードをやって変わったことは何ですか？

安藤さん：

生産者、コーヒーを作っている人の生活が変わりました。衣類も着れるようになって履物もはけるようになったからね。よかったなーと思います。でも、最近フェアトレードと言っても、名ばかりのものも多く、生産者をどんどんいじめているところもあるのですよ。

笹井さん：

ここには、大人塾に参加される方、また地域を豊かにする活動していきたい方が大勢見えていると思いますので、そういうみなさんにアドバイスをお願いします。

安藤さん：

ひとことでいえば健康。

愚痴は不健康から出るのだから、頑張って邁進してください。

私は、西荻の若者のやっているNPOに首突っ込んだりしてますし、レストラン「かがやき亭」のようにお年寄りが家から出て、集っておしゃべりしたり、ものづくりをして楽しめる、そういう所も応援しています。

店は週3日開店、配達を3日、世田谷の方までも自転車でコーヒー豆を届けている。

宅配便のある時代になぜコーヒー豆を自転車で配達するのかとおもわれるでしょう。

届け先のお客さんと顔と顔をあわせて会話することが大事です、そうするとほかの豆と違って、安藤さんの豆はこうやってわざわざ汗して運んでくれたから一粒も無駄にできないと言ってもらえる。

というわけで、一粒でも無駄にしないようにしてくださるので苦勞とは思わないのです。世間様には、自分の生きる後ろ姿を見て頂ければ、後はみなさんの前向きな考えをもとにそれぞれがやっていけばいいと思います。

笹井さん：

どうもありがとうございました。西荻の安藤さんのコーヒーショップもみなさんどうぞ、行かれてみてください。